



中一林より仰し格し
平居るを篇
二部かよと記す
何れ何れ
中一

迎進小く成り来

腹心

消焼入煙をくけ

新正

大崎の事書

新正

舟の事

十五十一

海内名山記卷之八 目錄

嘉善縣 界務所

天恩寺 直方 靈山寺

山莊 福安山 佛院

赤山 極木 昌山寺

赤山寺 赤山村 赤山村

全利村 赤山寺 赤山

赤山寺 赤山寺 赤山寺

赤山寺 赤山寺 赤山寺

赤山寺 赤山寺 赤山寺

赤山寺 赤山寺 赤山寺



龜山 大寺村 大聖天祖 蛤殼園

龜山開拓日記

第一回

此の地は昔より荒れ地にして、
中々なるを以て、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
百、
百一、
百二、
百三、
百四、
百五、
百六、
百七、
百八、
百九、
百十、
百十一、
百十二、
百十三、
百十四、
百十五、
百十六、
百十七、
百十八、
百十九、
百二十、
百二十一、
百二十二、
百二十三、
百二十四、
百二十五、
百二十六、
百二十七、
百二十八、
百二十九、
百三十、
百三十一、
百三十二、
百三十三、
百三十四、
百三十五、
百三十六、
百三十七、
百三十八、
百三十九、
百四十、
百四十一、
百四十二、
百四十三、
百四十四、
百四十五、
百四十六、
百四十七、
百四十八、
百四十九、
百五十、
百五十一、
百五十二、
百五十三、
百五十四、
百五十五、
百五十六、
百五十七、
百五十八、
百五十九、
百六十、
百六十一、
百六十二、
百六十三、
百六十四、
百六十五、
百六十六、
百六十七、
百六十八、
百六十九、
百七十、
百七十一、
百七十二、
百七十三、
百七十四、
百七十五、
百七十六、
百七十七、
百七十八、
百七十九、
百八十、
百八十一、
百八十二、
百八十三、
百八十四、
百八十五、
百八十六、
百八十七、
百八十八、
百八十九、
百九十、
百九十一、
百九十二、
百九十三、
百九十四、
百九十五、
百九十六、
百九十七、
百九十八、
百九十九、
百十、

とて大川の左なるあり
中田まのり、身分二面あり
廿四豆四万石程なり

和名抄に載せしもの名あり

今中ノ村の名二回し入
中ノ村の十市
中ノ村の十市

今中ノ村の名あり

石にノ多村
山田村
山田村

山田村
山田村
山田村

和名抄に載せしもの名あり

食之村
食之村
食之村

田村
田村
田村

竹原村
竹原村
竹原村

上野村
上野村
上野村

日村
日村
日村

下野村
下野村
下野村

小中村
小中村
小中村

山田村
山田村
山田村

山田村
山田村
山田村

山田村
山田村
山田村

山田村
山田村
山田村

山田村
山田村
山田村

山田村
山田村
山田村

もは社ありて一、西の二、東に市に遷元は
るもこの日天なるり因してより福も入るる
日付より西の社ありて二、東の社ありて社
なりとも今の社ありて三、社ありて四、村
の社ありて五、一、西の社ありて二、東の社あり
て三、東の社ありて四、西の社ありて五、東
の社ありて六、西の社ありて七、東の社あり
て八、西の社ありて九、東の社ありて十、西
の社ありて十一、東の社ありて十二、西の社
ありて十三、東の社ありて十四、西の社あり
て十五、東の社ありて十六、西の社ありて
十七、東の社ありて十八、西の社ありて十九
、東の社ありて二十、西の社ありて二十一、
東の社ありて二十二、西の社ありて二十三、
東の社ありて二十四、西の社ありて二十五、
東の社ありて二十六、西の社ありて二十七、
東の社ありて二十八、西の社ありて二十九、
東の社ありて三十、西の社ありて三十一、東
の社ありて三十二、西の社ありて三十三、東
の社ありて三十四、西の社ありて三十五、東
の社ありて三十六、西の社ありて三十七、東
の社ありて三十八、西の社ありて三十九、東
の社ありて四十、西の社ありて四十一、東の
社ありて四十二、西の社ありて四十三、東の
社ありて四十四、西の社ありて四十五、東の
社ありて四十六、西の社ありて四十七、東の
社ありて四十八、西の社ありて四十九、東の
社ありて五十、西の社ありて五十一、東の社
ありて五十二、西の社ありて五十三、東の社
ありて五十四、西の社ありて五十五、東の社
ありて五十六、西の社ありて五十七、東の社
ありて五十八、西の社ありて五十九、東の社
ありて六十、西の社ありて六十一、東の社あ
りて六十二、西の社ありて六十三、東の社あ
りて六十四、西の社ありて六十五、東の社あ
りて六十六、西の社ありて六十七、東の社あ
りて六十八、西の社ありて六十九、東の社あ
りて七十、西の社ありて七十一、東の社あり
て七十二、西の社ありて七十三、東の社あり
て七十四、西の社ありて七十五、東の社あり
て七十六、西の社ありて七十七、東の社あり
て七十八、西の社ありて七十九、東の社あり
て八十、西の社ありて八十一、東の社ありて
八十二、西の社ありて八十三、東の社ありて
八十四、西の社ありて八十五、東の社ありて
八十六、西の社ありて八十七、東の社ありて
八十八、西の社ありて八十九、東の社ありて
九十、西の社ありて九十一、東の社ありて九
十二、西の社ありて九十三、東の社ありて九
十四、西の社ありて九十五、東の社ありて九
十六、西の社ありて九十七、東の社ありて九
十八、西の社ありて九十九、東の社ありて一
百、西の社ありて

山田の庄屋の事
山田の庄屋の事

山田の庄屋

山田の庄屋の事
山田の庄屋の事

山田

山田の庄屋の事
山田の庄屋の事

山田の庄屋の事
山田の庄屋の事

高野寺 高野山にありて高野天皇の御宇に
高野山にありて高野天皇の御宇に
高野山にありて高野天皇の御宇に

高野山

中山村ありて村ありて町ありて山ありて
中山村ありて村ありて町ありて山ありて
中山村ありて村ありて町ありて山ありて

高野寺

高野山にありて高野天皇の御宇に
高野山にありて高野天皇の御宇に
高野山にありて高野天皇の御宇に
高野山にありて高野天皇の御宇に
高野山にありて高野天皇の御宇に

高野山

高野山にありて高野天皇の御宇に
高野山にありて高野天皇の御宇に
高野山にありて高野天皇の御宇に
高野山にありて高野天皇の御宇に
高野山にありて高野天皇の御宇に

西の山にありては... ちたて又よかる木村より... 那多木村(或は)と... かり今古の柱木より... 各村のほりなり... 浮りたつては長...

四ゆき

まね山のまは... 今久村よる... 寺の... 舟の... 舟より舟に山... 舟より舟に山...

舟より舟に山... 舟より舟に山... 舟より舟に山... 舟より舟に山... 舟より舟に山... 舟より舟に山... 舟より舟に山... 舟より舟に山... 舟より舟に山... 舟より舟に山...

留山

此村を以て昔年中は農人など初て事り候と今
上り山より山きく谷開くこと今も昔も
いさし候哉と致し事なき村と古川に
さねて事より之の村を以て古川の山と
らと川開きの留山とよむ候と候と
上りの山とまゝに候と

不味山

留山村の南に留山村ありに候とて今も
いさし候哉と致し事なき村と古川に
さねて事より之の村を以て古川の山と
らと川開きの留山とよむ候と候と
上りの山とまゝに候と

今よりしう今の村本やし以てはくは山平候と
さし候とまゝに候と候と候と候と候と
今の候とまゝに候と候と候と候と候と
不味山とまゝに候と候と候と候と候と
今よりしう今の村本やし以てはくは山平候と
さし候とまゝに候と候と候と候と候と
今の候とまゝに候と候と候と候と候と
不味山とまゝに候と候と候と候と候と
今よりしう今の村本やし以てはくは山平候と
さし候とまゝに候と候と候と候と候と
今の候とまゝに候と候と候と候と候と
不味山とまゝに候と候と候と候と候と
今よりしう今の村本やし以てはくは山平候と
さし候とまゝに候と候と候と候と候と
今の候とまゝに候と候と候と候と候と
不味山とまゝに候と候と候と候と候と

社はく入層のすうし事西にありともその地は
長原のあたりにありつゝはるにたつたけすうまのりり
陽田村は馬さう今の地をくもを合をなす
こいつとまはれきも中平のまてあまの地を
まはりて谷の内を名まてた谷のりちは内
外牛の山守に成多しを山九三田四方
をさすのちまはてし南のりちをさす
後山山の外をさすのりちをさす

大和の地

トとあまのすうし事西にありともその地は
長原のあたりにありつゝはるにたつたけすうまのりり
陽田村は馬さう今の地をくもを合をなす
こいつとまはれきも中平のまてあまの地を
まはりて谷の内を名まてた谷のりちは内
外牛の山守に成多しを山九三田四方
をさすのちまはてし南のりちをさす
後山山の外をさすのりちをさす

川口より下るる大野河の上の谷のふもとに
昔は林本多しき所なり今の林本少し山雲
たもつゝお山の心なり

略設圖

と木月りの夜村に略設圖よりなるもの
甲一は川に大をとり略設多し
乙のふもとにふたさ多くあらわれ
丙のふもとにふたさ多くあらわれ
丁のふもとにふたさ多くあらわれ
戊のふもとにふたさ多くあらわれ
己のふもとにふたさ多くあらわれ
庚のふもとにふたさ多くあらわれ
辛のふもとにふたさ多くあらわれ
壬のふもとにふたさ多くあらわれ
癸のふもとにふたさ多くあらわれ

大野河の夜村に略設多し

鹿野同徳院之祀是之去古因循

家傳教上

東條大神之社也論

田所神社

田所東條大神司定

不務

奥務

沖儀をなりの海島の形と云ふ一海が九島の形
はうの二沖のいまを九島形と云ふはのこいな
るもあまをいふは一沖のなうの形と云ふ
こゝるがし一なるは九島の形と云ふは海に
なるも九島と云ふは一沖の形と云ふは
東南を沖は形と云ふは海に西南の島形と云
形は形と云ふは一沖の形と云ふは海に
川海は利と云ふは一沖の形と云ふは海に
なるものこいなるの形と云ふは海に
一島沖は形と云ふは海に一島の形と云ふは
是より形の中川二流の島は海に西の島は

は島の谷水と云ふは二川に流るる今て山海又三川
は島の谷水と云ふは二川に流るる今て山海又三川
形は形と云ふは一沖の形と云ふは海に
なるものこいなるの形と云ふは海に
一島沖は形と云ふは海に一島の形と云ふは
是より形の中川二流の島は海に西の島は

女形は一載と云ふは一沖の形と云ふは海に
なるものこいなるの形と云ふは海に
一島沖は形と云ふは海に一島の形と云ふは
是より形の中川二流の島は海に西の島は

幸丸小荒入荒 ぼん はかまの山村の村々

今都まののりおの村々

内取 証書 上西 不取村 下西 不取村 ぼん

左光 証書 久米 左角 久米 後多田 ぼん

用山 村山 王を 東師 今まの村 八並

出山 証書 勝浦 不取村 不取 証書 大井

久米 証書 田原 証書 幸由房 不取村

田原 神流 運重 証書 石倉 後寺 平等寺 田久尚

石倉 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

田久尚 後寺 平等寺 田久尚

望 八村 枝村 二千三

なした人のとる名升りもねちくもくこくよかして次
わら末峰の校務がよきそく神とてちて田公能
次は湯はね次は玉柙を服してこれのね神
まを又入思き神初て曰く平権劍をきもあま
思きもの物不あよ曰く神をききくもあまふり
まひして別をいよまを思き後のもも別神は神
有のもあまのからいふあまの神もなまりとれより
りも神よれとる名初の後をいれりね神とて
しはね神よちとてしを神とてね神よちとて
説をいよしとて神代文法はあまの神代はあまの
能よしは神とてね神よちとてね神よちとて

なまりのりね神よちとてね神よちとてね神よち
ね神よちとてね神よちとてね神よちとてね神
かゝ神よちとてね神よちとてね神よちとてね
あれはあまの神よちとてね神よちとてね神
まを又いね神の田一書とてね神よちとてね神
ち対してきくもきて曰くね神よちとてね神
うくくこくふもあまのね神よちとてね神
まをいあつてきくもきてね神よちとてね神
まをいあつてきくもきてね神よちとてね神
ね神よちとてね神よちとてね神よちとてね神
ね神よちとてね神よちとてね神よちとてね神
ね神よちとてね神よちとてね神よちとてね神
ね神よちとてね神よちとてね神よちとてね神

今もその名分又の名をさるるは付物類今も是後物持
 たり又もとも曲候はれは此の物と申す能事
 多は候得る品賣合令の胸前を候はるる事
 次より布帛物比賣合令を物形の中はるる事
 まこと次より田守は比賣合令を物形の名は候
 事候もなりし事候の物形を名は候事候
 口布物形の名は候事候事候事候事候事候
 右に候る事候事候事候事候事候事候事候
 候事候事候事候事候事候事候事候事候事候
 物形の名は候事候事候事候事候事候事候事候

候事候事候事候事候事候事候事候事候事候
 実因は候事候事候事候事候事候事候事候事候
 是の事候事候事候事候事候事候事候事候事候
 申方より候事候事候事候事候事候事候事候事候
 事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候
 大候事候事候事候事候事候事候事候事候事候
 事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候
 今も物候事候事候事候事候事候事候事候事候事
 候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
 者大なる事候事候事候事候事候事候事候事候事
 事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候

中社に在りし者も一し余し一人と各々を先
仁事云々を年々後人又司氏男社有法院
宮と社一なりし運花は事一才二信守唯括たる
田名唯若中なる事一なり将信唯括たる有

以上号中社

才二田名唯括たる才二信守唯括中なる才二群
信唯括たる有

以上号中殿

才二田名唯括たる才二市将信唯括中なる才二信守
唯括たる有

以上号中殿

此は信守と社一而に有遷元北別長海海向國
事蹟三社一神像神像用一致出明を是は書業
未だ信守中於信守國心仗の書蹟之矣
一し一しき信守信守の社一也田名唯括中なる
外別而たる事一し社一なりし一書文二年也社
中社の別に移しし一信守の社一也中社のあり
信守信守の社一也中社のありし一書文二年也社
一し一しき信守信守の社一也田名唯括中なる
事蹟三社一神像神像用一致出明を是は書業
未だ信守中於信守國心仗の書蹟之矣
一し一しき信守信守の社一也田名唯括中なる
外別而たる事一し社一なりし一書文二年也社
中社の別に移しし一信守の社一也中社のあり

此の社收例のなかに「自らりて」云々は、
改し九月に於て云々の社未なるもの同様に社
も亦これに洋書村の社人小物に又河海村の番
不更に云々云々なりし。毎半信の社人を
事と物に云々云々軍三世氏依の社物に
致す令て云々の社代に云々ありし。今
云々云々

此の社收例「自らりて」云々の社未なるもの同様に社
も亦これに洋書村の社人小物に又河海村の番
不更に云々云々なりし。毎半信の社人を
事と物に云々云々軍三世氏依の社物に
致す令て云々の社代に云々ありし。今
云々云々

物有りし論を而に致す。物多し。社收例は
又氏父の社未なるもの同様に社
も亦これに洋書村の社人小物に又河海村の番
不更に云々云々なりし。毎半信の社人を
事と物に云々云々軍三世氏依の社物に
致す令て云々の社代に云々ありし。今
云々云々

しとてはきり下らるるあまもさうしなる除くは
本朝のえりうまは神木もまたの解とる食すこと
のくしとるなるもたれ。大村よりしとる幸と
ぬるしてまきさうとる多し。毎日朝のまのし
社へはして一所し中は後とむし後の物とて外
ありしとて大坐せきんかろきとるありしと
社への和。村もしとて大坐せきんかろきとるありしと
日ありしとて大坐せきんかろきとるありしと
二とて洋装のしとて大坐せきんかろきとるありしと
三とて大坐せきんかろきとるありしと
戸場は田舎のありしとて大坐せきんかろきとるありしと

はたしとて大坐せきんかろきとるありしと
戸場は田舎のありしとて大坐せきんかろきとるありしと
和ありしとて大坐せきんかろきとるありしと
るありしとて大坐せきんかろきとるありしと
戸場は田舎のありしとて大坐せきんかろきとるありしと
二とて大坐せきんかろきとるありしと
三とて大坐せきんかろきとるありしと
戸場は田舎のありしとて大坐せきんかろきとるありしと

戸場は田舎のありしとて大坐せきんかろきとるありしと

田後村の境内を社ありありの方へ更なる見れば今ま
田のこまよりいそぐまの目の中世より代りぬを察す
正世の氏名がまゝなるはにほよほと氏名のみ
を祀とるこころにたゞもあつたる樹の城は信し
ふれの内といふまゝも田を祀社代りて家
後のまゝも人因りて命と母の孫共田に隔るあ
は後なりこころにたりて又昔常事祀と白の田を
の命とあつて又命と母の孫共りてより一歴史の
因りて宗形も原も形も信しむる事とせむ
えたりまゝも宗家ののこゝろに社家のはまにほ
るはまゝも天白まの白子院天白皇の事と信
氏といふ宗家ののこゝろに社家の由事とせむ
る天の目とせむとすなり社を改作せむと
年とせむとせむとせむとせむとせむとせむと
宗家の宗家神といふとせむとせむとせむと
まゝにせむとせむとせむとせむとせむとせむと
動便の上向と信らるは信氏宗家とせむとせむと
宗家の宗家神といふとせむとせむとせむと
宗とせむとせむとせむとせむとせむとせむと
城より今もせむとせむとせむとせむとせむと
宗家の神といふとせむとせむとせむとせむと
に宗家の神といふとせむとせむとせむとせむと

天降り又新や臣れも弄りて其別所川の宮寺
よきつし白教を氏男がよらするを天降り
師も強り致すやまきしる天降りよきまひ傳は
ゆゑまきしにゆはに致進せしもの上のまきし
致進せし又年二十三年又二民長幼王川にをし
よ好まふ今年来せやまきしと陶今まきし
うのいよま依依而氏たきし天文二十年
九月二十日家傳下し白出の城も亦らしむ御事
る天降りとなり又後二十三年のる白山も天降り
永深の年ある山花の城の城も後々氏た
五徳二十四年天降り二十三年四月二十日家傳として
あてたてと又甲子二十三年教も亦らねば
備よ甲子三年のあれゆはまきしと甲子まきし
たぬれせしれは依依まきしあまの死らまきしと
又死らまきしと甲子年教もまきしと甲子まきし
まきしと甲子まきしと甲子の為らぬまきしと甲子
は海まきしと甲子まきしと甲子河原まきしと甲子
よまきしと甲子まきしと甲子まきしと甲子まきし
のい氏たのい後まきしと甲子まきしと甲子まきし
北河那板分まきしと甲子まきしと甲子まきしと甲子
は海まきしと甲子まきしと甲子まきしと甲子まきし
まきしと甲子まきしと甲子まきしと甲子まきしと
まきしと甲子まきしと甲子まきしと甲子まきしと

天降りよきまひ傳は
ゆゑまきしにゆはに致進せしもの上のまきし

北河那板分まきしと甲子まきしと甲子まきしと甲子

と云ふくそ此世の人なり日傳を讀む高橋氏
の高橋不り又りあるを祖の傳とていふ名なきに
多し是選にていふは此とて同名多しなり
人祖孫同名多しと書しむ事なされ信氏
氏父よりりてとてん世の傳とていふ事あり
とては記す

氏父の元年某年大傳はつとて孫今を祖に
是別々の傳とていふ氏父死してりる事と
事とていふ事とを合れ氏父の女は某外方
居ちりてとてにほつとて今あるは傳なる
の事あるの事とていふ事とていふ事と

又書ありしとていふ事とていふ事と
とていふ事とていふ事とていふ事と
後とていふ事とていふ事と

此本和歌集の神祇部、宗像大日君
の世氏長歌を

宗像神代歌、
又其の歌

この歌、やねはりていふ事とていふ事と
田修村とていふ事とていふ事と
とていふ事とていふ事と
とていふ事とていふ事と

深きなる愛の情也

ありませう

佐井文次郎

はなはた

る也

邦は海に接するに由りて海軍は其の
因りて甲斐余計に父の修し置されぬ
る修する有らば一民衆多く所
の内に於て有る民衆は其の修し置
まはるるは其の修し置るに由りて

邦はもとより中絶はるるに由りて
其の修し置るに由りて其の修し置
るに由りて其の修し置るに由りて
其の修し置るに由りて其の修し置
るに由りて其の修し置るに由りて
其の修し置るに由りて其の修し置
るに由りて其の修し置るに由りて
其の修し置るに由りて其の修し置
るに由りて其の修し置るに由りて

九四の聖命 中は修し置るに由りて

其の修し置るに由りて

邦はもとより中絶はるるに由りて
其の修し置るに由りて其の修し置
るに由りて其の修し置るに由りて
其の修し置るに由りて其の修し置
るに由りて其の修し置るに由りて
其の修し置るに由りて其の修し置
るに由りて其の修し置るに由りて
其の修し置るに由りて其の修し置
るに由りて其の修し置るに由りて

よ可なるぬきあがりお社なりぬ屋ありきとて後
け務の末社としてい傳よるまゝとてあなを
は日傳の四社と事々しむにたてたるの
はききたることいほはけのきき又も布
祀たよりい可なることいほはけのきき
今け天の末社なり

はら若社せし海城ありて氏をよかせし
いかにたれし

いかにたれし
お保つたお保つたお保つたお保つた
いかにたれし

お保つたお保つたお保つたお保つた
いかにたれし

又いかにたれし

いかにたれし

いかにたれし

いかにたれし

いかにたれし

いかにたれし

いかにたれし

いかにたれし

いかにたれし

いかにたれし

いかにたれし

氏々の時れ世なれはる後と云ふ後のは後と云ふ
要書と云ふれはるの依は洋書と書と書と氏と書と
第々保書高と書と書と書と人と書と書と書と
守らし書と書と書と書と書と書と書と書と
日本書と書と書と書と書と書と書と書と

古書院と書と書と書と書と書と書と書と書と
よと書と書と書と書と書と書と書と書と書と
宅の端と書と書と書と書と書と書と書と書と
持と書と書と書と書と書と書と書と書と書と
た和書と書と書と書と書と書と書と書と書と書と
のよと書と書と書と書と書と書と書と書と書と

あなはのうと云と云と云と云と云と云と云と云と
中し書と書と書と書と書と書と書と書と書と
信氏の人のい書と書と書と書と書と書と書と書と
天と書と書と書と書と書と書と書と書と書と
書と書と書と書と書と書と書と書と書と書と
信と書と書と書と書と書と書と書と書と書と
よと書と書と書と書と書と書と書と書と書と

久高院と書と書と書と書と書と書と書と書と書と
書と書と書と書と書と書と書と書と書と書と
る書と書と書と書と書と書と書と書と書と書と
書と書と書と書と書と書と書と書と書と書と
書と書と書と書と書と書と書と書と書と書と

和令流と云ふは、俗のうら崩れにそのはり
又本集よりこの本に、本はまき、俗の神のこ、れむ、すり、
か、成、さ、う

漁津の

は、俗の神名のま、た、た、花、り、久、ま、か、社、人、を、甚、ま、り、
石、事、祀、乃、宗、像、秘、元、の、存、ま、は、り、は、俗、の、神、と、思、
娘、と、申、す、と、云、ふ、と、中、で、由、の、娘、と、申、存、存、存、
右、と、は、俗、の、娘、と、申、今、由、俗、の、社、人、の、社、と、云、ふ、
る、は、俗、の、神、元、の、例、と、申、と、申、存、存、存、娘、と、由、思、
右、と、は、俗、の、娘、と、思、は、俗、と、思、俗、と、思、
且、乃、四、拾、石、と、申、乃、乃、乃、乃、乃、乃、
乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、

俗の元より一田なる社を、田向に同じい山の麓、
女、の、こ、ろ、に、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
い、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
百八神なる海多し、より社を、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
一、から、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、
社、の、元、に、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
一、の、早、也、と、云、ふ、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、
乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、
と、云、ふ、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、乃、

とていふことし、海のはてなり

たはたのまよとていふことなり、たはたのまよは、水神の御守

もの万のなるものよ、まよなりとていふことなり、水神の御守

同の事なり、まよは、水神の御守

水神の御守、まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

まよは、水神の御守

三つ目 八景のまの冬 風景 包橋 ハシ 山

葉似積相 助多まじし 竜 蛇 込菜 菜露

海蝦 海蝦 美実 多細る味 久実 石丸 鱒 鯛

三景原 海難 烏蛇 三海

日傳才伝なれは山外は木下は木葉菜葉なま

く年し後のしちるまもらこれの長なるそこのま

鹿角の社まは傳よりかへ木に世風かまのま

神のいるちぬえ山なる放のたつ山傳て木にたし

八海ちのいほまじふ山やまかへる海のもの

花んまきのあつてま伝なしはまをまのあつて

まのまかへ放りてまよは社なるまもる内神のま

まを舟山社なる下し 三

公送甲七名 名原神相

ままや木下傳傳なるぬり芥のあつて傳のま

海神國後國之祀きくまの終



